

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会
第 27 号
2013 (平成25) 年5月18日 (土)

ろんごじゅく 「論語塾をふりかえって」

札幌市立北野台中学校 1年 道端 康介

ぼくは、論語を習い始めて、初めて「仁の心」というものを知りました。

ぼくは、論語塾に通うまでは、思いやりの心を持つということに、あまり関心がありませんでした。でも、新田先生の「寺子屋・こども論語塾」を始めてから「仁の心」というものを深く学び、毎回、論語塾に通っている内に新田先生のもとで色々な事を学びました。

いつも新田先生の後に続く素読は、最初は全く意味がわからなくて、ただまねをして読むだけだったけれど、通い続けて行くうちに、新田先生の後を追いかけて読んでみると、何となく意味がわかるようになってきました。新田先生の読み方は、いつも心がこもっていて、ぼくには全然まねできませんでした。ぼくは、論語塾で買った日めくりカレンダーを見ていると、こんな一節を見つけました。

「子曰わく、君子は義しのだまに喩り、小人は利くんし ぎ さと しょうじん り さとに喩る。」

意味は、「君子は正しいか正しくないかで物ごとを判断して、小人は損か得かで物ごとを判断する。」です。本当にその通りで、残念ながらぼくも小人でした。だけど、論語に通い始めて、本当に少しずつだけれど、正しいか正しくないかで物ごとを判断することが出来るようになってきた気がします。

そして毎回やる坐禅も段々慣れてきて、集中力が保てるようになってきました。

これからも論語塾に通い続けて、仁の心を持った新田先生のようになりたいです。

※ 来月は、上野暁一君にお願いします。

【ちょっといい話コーナー】

● 塾生の池田真帆さんが、北海道新聞4月27日(土)夕刊・小学生新聞の「通信員だより」欄に掲載されましたので紹介します。池田さんはその中で「寺子屋・こども論語塾」で学んでいる論語についてふれています。

論語の衛霊公第十五・第三十一章に「子曰わく、吾嘗て終日食わず、終夜寝ねず、以て思う。益無し。學ぶろんご えいれいこうに如かざるなり。」とありますが、池田さんはこの言葉が学ぶことの大切さを気づかせてくれるので大好きだそうです。この章句の意味は次のようになります。

孔子先生がおっしゃいました。「私は嘗て、一日中食事もせず、一晩中寝ないでひたすら考え続けたことがある。しかし、それはいかに無駄なことであるかがわかった。ひとりで悩んでいるよりも、時には人に聞き、また書物で学ぶことの方がどれほど大切であるか」と。

池田さんは、「論語には、生きていく上で大切なことがらが書いてあります。その魅力はおく深く、理解するのはとてもむずかしいのですが、学ぶうちに論語のすばらしさを自分の生活に取り入れたいと思いました。」とも述べています。

人間としての正しい生き方についてのシンプルなルールを学ぶことができるのが論語です。今は「ことば」の意味がわからなくても、声に出して読むことで体に染み込ませていけば、年齢と共にどこかの時点で必ず生きてくると確信しています。

● 4月から黒松内への山村留学のため、塾を1年間休むことになった阿閉由佳さんが、山村留学のホームページを開くと田舎暮らしを満喫している様子を見ることが出来ます。

阿閉さんは毎日、元気に楽しく過ごしているようです。

※ 今月、塾生紹介をすることになっていました、鈴木喜久江さんと三村カズ子さんは、6月になりますのでご了承下さい。